

ベルリン・フンボルト大学

設立 1810年

学部

法学部

農・園芸学部

第一数学・自然科学部

物理学、生物学、化学、薬学

第二数学・自然科学部

数学、情報学、心理学、地理学

医学部 シャリテ

第一哲学部

哲学、歴史学、図書館学、ヨーロッパ民族学

第二哲学部

外国語学、ドイツ学

第三哲学部

社会科学、アジア・アフリカ学、文化芸術学

第四哲学部

教育学、リハビリテーション学、スポーツ科学

神学部

経済学部

中央研究所

自然科学博物館、イギリスセンター

大学付属中央施設

語学センター、計算機センター、大学付属図書館、大学スポーツ

特別研究プロジェクト数（統括／参加）：3／11

特別博士講座数（統括／参加）：16／7

イノベーションプロジェクト数：3

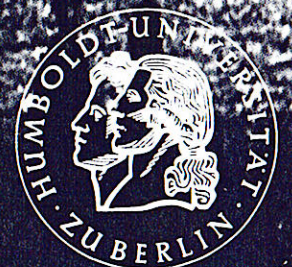
財団支援教授数：10

教授数：609

登録学生数：32233人（1999年夏学期）

外国人学生数：3359人（1999年夏学期）

学外補助金からの支出：1億2600万マルク（1998年度）



1810年に開設されたベルリン大学が「近代大学の母」と呼ばれることになったのは、ヴィルヘルム・フォン・フンボルトのベルリン大学建学の精神が、その後の「総合大学（universitas litterarum）」の理念に受け継がれたからである。教育と研究を統合し、学生の全面的人間教育を目標とする総合大学の構想は世界中に広がり、続く150年間、各地で同じタイプの総合大学が創設された。

学者で政治家でもあったヴィルヘルム・フォン・フンボルトのこの構想に影響を与えたのは、ベルリン大学初代学長となった哲学者ヨハン・ゴットリープ・フィヒテの改革理念や神学者で哲学者のフリードリッヒ・シュライエルマハーの思想であった。

大学設立時に開設されたのは、古典的な4つの学部、つまり法学、医学、哲学、神学部で、256人の学生と教員52人で第1学期目をスタートした。各学部は、ゲオルグ・フリードリヒ・ヴィルヘルム・ヘーゲル（哲学）、カール・フリードリヒ・フォン・ザヴィニー（法学）、アウグスト・ベック（古典文献学）、クリストフ・ヴィルヘルム・フーフエラント（医学）、そしてアルブレヒト・ダニエル・テア（農学）などの教授陣を得て、それぞれ特色ある性格を発展させた。

また、自然科学者アレキサンダー・フォン・フンボルトの助力も得、大学は新しい分野を次々と切り開いていく先駆ともなった。化学者アウグスト・ヴィルヘルム・フォン・ホフマン、物理学者ヘルマン・フォン・ヘルムホルツ、数学者エルンスト・クンマー、レオポルド・クローネッカー、カール・テオドア・ヴァイヤーシュトラス（“数学界の三賢”）、さらに医学者ヨハネス・ミュラー、ルドルフ・ウィルヒョウらは、それぞれの専門分野でベルリン大学の枠を超え、広く名声を博した。ベルリン大学で学術研究を行ない、後にノーベル賞を受賞した研究者は29人を数え、その中には、アルバート・アインシュタイン、エミール・フィシャー、マクス・プランク、そしてフリッツ・ハーバーなどが含まれている。また、ハインリヒ・ハイネ、アーデルベルト・フォン・カミツ、ルードヴィヒ・フォイエルバッハ、オットー・フォン・ビスマルク、カール・リーブクネヒト、フランツ・メーリング、アリス・ザロモン、カール・マルクス、クルト・トゥホルスキーもかつて学生として登録されていた。ハインリヒ・マンは第二次世界大戦後初の名誉教授になった。

プロイセン王フリードリヒ・ヴィルヘルム三

世は、ハインリヒ王子の旧宮殿を大学最初の校舎のために提供した。この宮殿は1748年から1766年にかけて、有名な繁華街ウンター・デン・リンデンに建設され、その後1913年から1920年にかけて大規模に増築された。王立図書館が次第に高まる講義需要に対応できなくなったため、1831年には大学図書館が設立された。1828年に「フリードリヒ・ヴィルヘルム大学」と改名した大学は、その拡張に伴い、市内の各種施設を徐々に統合していった。現在でも有名な「シャリテー」（“慈愛”、大学病院の名称）もその一つである。シャリテーは本来、ペストの大流行に備えてフリードリヒ一世が市門の外に建設させた検疫所であった。この「ペストハウス」は、貧しい病人や病弱な老人を収容するために利用されたが、1726年には守備部隊病院として軍医の養成、実習、外科医の教育訓練を行う施設となった。1727年、「軍人王」フリードリヒ・ヴィルヘルムが『ペストハウスはシャリテーと改名されるべし』との勅令を下した。同所に大学医学部が居を構えることになったのは1829年のことである。19世紀後半には自然科学分野の諸研究所の建設によって、最新の研究教育施設が誕生することになった。獣医学校（1790年開校）が獣医学部として、農業大学（1881年開校）が農学部として、各々大学に統合され、さらに自然科学博物館もこれに加わった。臨床および前臨床施設が大学医学部に統合されたことにより、19世紀末には諸学術分野の大規模な地理的連結が完了したのである。

――十世紀前半のベルリン大学は、学術的に大きな成果を挙げ、国際的にも多くの優れた学才を引き付ける魅力にあふれていた。オランダ人ヤコブス・ヘンリクス・ヴァント・ホフは、化学力学の法則に関する研究で、1901年にノーベル化学賞受賞第一号となった。古代史学者テオドル・モムゼンはローマ史に関する斬新な著作を発表し、1902年にノーベル文学賞を受賞した。これに続く27ものノーベル賞は、ベルリン大学で活躍した学者達の輝かしい業績を物語るものである。ここでは化学者ヴァルター・ネルンスト、物理学者マクス・フォン・ラウエ、グスタフ・ヘルツ、ジェームズ・フランクらの名前が挙げられよう。さらに、医学者エミール・フォン・ベーリングはジフテリアの特効薬の開発に力を注ぎ、初のノーベル医学賞を受賞し、その数年後には、肺結核及びコレラ感染源を発見したロベルト・コッホにも同じくノーベル医学賞が与えられた。現時点で大学関係者として最も新しいノーベル賞受賞者となって



ベルリン大学創設者
ヴィルヘルム・フォン・フンボルト

思うに、この国の学術は私によって新たな勢いを得ることになった、そう言っても間違いではないだろう。官職に就いたのは1年間にすぎなかったが、それでも、私が運営を指揮したこと、この痕跡はいつまでも残り続けるだろう。しかし、何にもまして私という人間と最も深い関わりを持つのは、この地ベルリンに新しい大学が設立されたことである。

ヴィルヘルム・フォン・フンボルト
(1810)

いるのは、量子力学の共同創始者マクス・ボルンである。1954年に「自然現象に関する新思考枠組の基礎づけ」という彼の業績に対してノーベル賞が授与されたことは、大学がドイツ史上最悪の時代を生き抜いたことを示す出来事であった。

ユダヤ人教員と学生、また国家社会主義に抵抗する者の追放、殺害は、1933年から45年までの間、大学に多大の損失をもたらした。1933年5月10日の焚書事件に大学教職員と学生が参加していたことは大学にとって最も恥ずべき出来事である。これを皮切りに戦時中多くの教員が、かつて「人道的思想のふるさと」とみなされてきたベルリン大学を去っていった。学術的人材の大規模な流出によって大学の潜在力は大きく損なわれたが、1946年には、戦争による傷跡が残る校舎で、とりえず7学部が授業を再開した。しかし、戦後の政治対立が深まり、次第に大学に対する共産主義勢力の影響力が強まるにつれ、それに対する抗議行動が高まると、学内の教員、学生グループはそれぞれの陣営に分裂し、両者の対立は1948年12月の米軍占領地区でのベルリン自由大学設立へと発展したのであった。

1949年以来、ベルリン大学はアレキサンダーとヴィルヘルム兄弟にちなみ、フンボルト大学と呼ばれている。しかしながら、1950-51年そして1967-68年の大学制度改革は、それ以前の大学の学術的伝統に反し、研究内容、教育課程から研究条件までを支配的イデオロギーに従って全面的に改編するものであった。こうした措置にもかかわらず、いくつかの分野では、大学の国際的なつながりが再開され、世界レベルでの交流が促進された。とりわけ、東欧諸国——特に、旧ソ連、ハンガリー、ブルガリア——さらには、キューバ、ベトナム、中国、アフリカ諸国の大学との長年に及ぶ密接な学術交流は、現在においてもドイツ国内の他大学ではみられないほどのレベルを維持しており、注目に値する。また、70年代以降、フンボルト大学との協力に関心を寄せる研究機関はイギリスやフランス、日本などでも多く、日本国内でフンボルト大学と正式の提携協力関係を持つ大学は9つにもものぼる。

1990年のドイツ統一によって、ベルリンは3つの総合大学を抱える都市となった。統一の過程で生じた種々の問題にもかかわらず、フンボルト大学は異例の機構改革を実施し、

優秀な学者陣を東西を問わず、また国の内外から獲得した。学外者も参加した機構・教授招聘委員会と専門家グループによる幾多の鑑定、推薦を得て、大学は新しい学術組織を手にした。学術内容は審査に付され、必要に応じて改編、または新たに定義づけられることになった。また、これと平行して、全職員が個人的・学術的な評定を受けた。この過程の中で、構造改革上の見地からばかりでなく、財政的な制約を理由に多くの職員が解雇されることとなった。



Handzeichnung zur Gestaltung der Mittelfassade von Friedrich II. von Preußen, um 1747

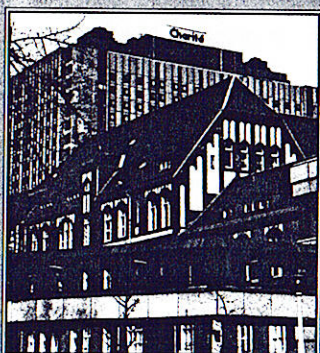
Im Ergebnis der inneruniversitären Neustrukturierung gliedert sich die Humboldt-Universität heute in elf Fakultäten sowie zwei Zentralinstitute. Die heutige Medizinische Fakultät der Humboldt-Universität zu Berlin umschließt das Universitätsklinikum Virchow-Klinikum der Friedrich-Wilhelms-Universität zu Berlin, die größte medizinische Fakultät der Humboldt-Universität zu Berlin.

プロイセン国王フリードリヒ二世による中央正面入口構想スケッチ (1747頃)

校内構造改革の結果、今日、フンボルト大学には11の学部と2つの中央研究所が所属している。現在のフンボルト大学医学部は、同大学病院シャリテとベルリン自由大学ウィルヒョウ病院との統合により、ヨーロッパ最大の医学部となった。

大学の教育・研究内容は、人文・社会科学、文化科学、医学、農学、数学そして自然科学の全ての基礎学術分野を包括している。

現在フンボルト大学では224に及ぶ専攻課程ならびに専攻科目の組み合わせが履修可能である。19の分野に学士課程があり、さらに12言語で通訳と翻訳のための特別学士課程がある。その中には多くの東欧言語が含まれている。修士課程では59科目の専攻が可能である。法学、医学、歯学、薬学(薬学科は閉鎖予定)の各分野では、国家試験をもって学業終了となる。また、プロテスタント神学部では大学試験もしくは教会試験がある。履修可能な教職課程は広範囲にわたるが、そのひとつに特殊養護学校の教職課程があり、各種の特別科目を学ぶことができる。1997-98年の冬学期から新たに、ドイツ



D フンボルト大学本館と
H 大学病院 シャリテ
U (シャリテ・ミッテ
C 区キャンパス)

国内の大学では唯一のジェンダー研究と国際農業学の講座が開講された。

このような多岐に渡る専攻科目を提供するフンボルト大学に学籍登録している学生は、1999年の夏学期の時点で32,233人にのぼる。そのうち約10%は外国からの留学生である。近年度中には、専門科目を補完する履修課程が開設される予定であり、また以前需要の大きかった通信教育もすでに再開された。生涯教育や連続・公開講義の分野でも多様な選択肢が用意されており、医学部には「高齢者聴講講座」などもある。

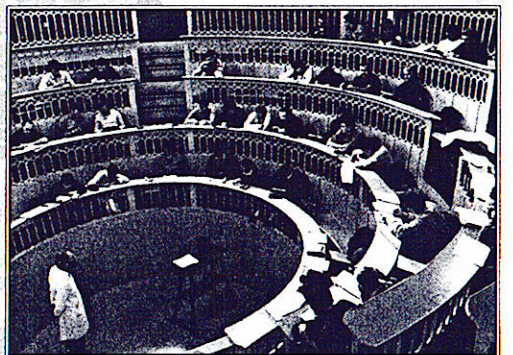
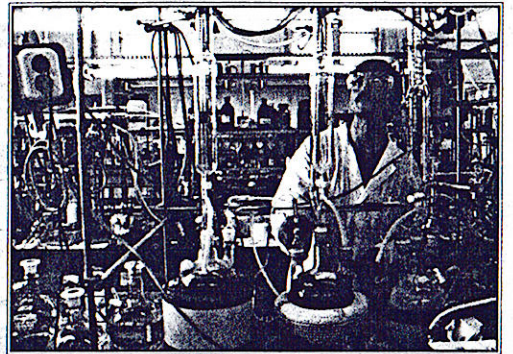
フンボルト大学の各学部のうち、数学、医学、物理学、化学、生物学、歴史学、文化芸術学、スカンジナビア学、経済学、法学の分野は国際的に特に高く評価されている分野である。フンボルト大学は、3つの特別研究プロジェクトにおいて研究を統括する指定大学の地位にある。そのうち1つは経済学、他の2つは医学の分野に属している。また、16の特別博士講座でもフンボルト大学は指定大学としての地位にあり、さらに「理論生物学」と「伝達システムの神経学的変更後の補正および調節メカニズムと脳機能についてのその意義」がイノベーションプロジェクトに指定されている。多くのプロジェクトがヨーロッパ連合の援助を受けて実現した。フンボルト大学は他大学を指定大学とする11の特別研究プロジェクトと7つの特別博士講座、さらに8つのドイツ学術振興協会（DFG）研究チームに参加している。また、財団基金の援助によって教授職ポストを設置することが可能となった。

多くの研究者が様々なプロジェクトを携えてCeBIT、ハノーヴァーメッセ、ベルリンの国際緑の週間（農業博覧会）やUTECHベルリンなど国内外のメッセで活躍している。現在フンボルト大学では約70のプロジェクトが各種財団（フォルクス・ヴァーゲン基金、ドイツ学術推進基金連盟など）を通じて支援されている。他大学との伝統的な協力関係のさらなる進展、そして世界の一流大学から寄せられる共同研究への強い関心は、世界レベルでの学術交流においてフンボルト大学が果たしている重要な役割が認められたものであることを如実に示している。

大学は既に1991年の段階で、手狭となっていたベルリン・ミッテ区の数学自然科学研究所をベルリン・アドラースホーフへ移転する計画を決定していた。アドラースホーフには今後20年の間に、約30,000の職場と5,000戸の住宅、さらに自然公園を抱える市街地が誕生する予定である。フンボルト大

学数学自然科学部もこの公園内に移転することになっている。

in dem auch die mathematisch-naturwissenschaftlichen Fakultäten der Humboldt-Universität ansässig sein werden.



Die enge Verflechtung von Wissenschaft und

学問と経済の密接な関係は、新しい製品やテクノロジー、知的サービスの開発を促進する理想的な条件を提供する。それはまた、大学における将来指向の教育、研究、生涯教育の発展、開発のためにも重要なものである。この意味で、ベルリン南東部で進められつつある地域開発事業はユニークなものとなるだろう。

この計画が実現すれば、研究所の移転によって、資源科学、環境工学、生物物理学、バイオテクノロジーといった分野における学際的で新しい研究テーマの発展に大きく貢献することになる。

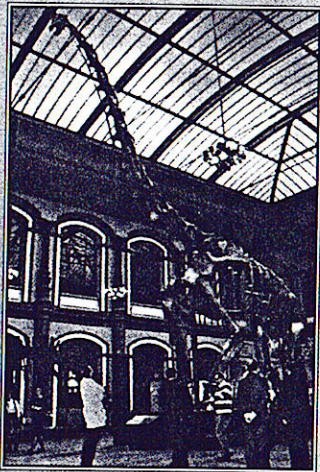
ベルリン市の厳しい財政状況と大規模な支出削減計画に伴い、フンボルト大学でも数年来の組織、教員の拡充の時代は過ぎ去り、その縮小の時代へと移りつつある。ベルリン州と締結した協定によって、大学は2000年までの財政計画に対する保証とともにより大きな自己責任範囲をも手にするようになった。フンボルト大学は、ベルリン大学法の適用を一定期間免除されるという機会を生かし、決定構造や組織形態、教育課程などの分野で新しい試みに取り組んでいる。

数十年にわたる激動の歴史をかいくぐりながらも、フンボルト大学は、研究と教育の統合という原則を常に守り続けてきたのである。



ベルリンはこれから次々と第一級の施設、すなわち天文台、化学研究所、植物園、超越数学のための学校を設けることになっている。私の努力を結集した尽力の全ては、この目的に向けられたものである。

アレクサンダー・
フォン・フンボルト
(1827)



1億5000万年前の
ブラキオザウルスの骨
格 (自然科学博物館)



シャリテの解剖学コ
レクション

大学の自然科学博物館は、国際的にも定評のある自然科学コレクションである。自然史博物館としてはドイツ最大で、世界でも重要な10の自然博物館の一つに数えられている。最も価値ある展示物としては、始祖鳥 (Archaeopteryx)の化石の他にブラキオザウルス (Brachiosaurus)の骨格の化石などがあるが、そのどちらも最良の状態で見守られており、特に高さ1.2m、全長2.3mのブラキオザウルスの化石は、組み立てて復元された恐竜の骨格としては世界最大のものである。フクロオオカミやクウアッガの標本、そしてこれまでに発掘された最も大きな琥珀石などを見ることが出来る。(所在地: Invalidenstraße 43、開館時間: (火)-(日) 9:30-17:00、電話番号: 030-2093 8591)

病理解剖学コレクションはシャリテの中でも最も人気のあるスポットである。展示品は近代病理学の創始者ルドルフ・ウィルヒョウが1856年に教授として大学に招かれて以降系統的に収集したものである。(所在地: 病理学研究所: Schumannstraße 20-21、開館時間: (火)(木) 14:00-16:00、電話番号: 030-2802 3147)

シャリテ在職中の1905年にノーベル医学賞を受賞したロベルト・コッホを記念して博物館が開設された。ノーベル賞状や自らサインをいれた結核菌の標本を含む300以上の展示品をここで見る事が出来る。1882年、今日でも現存するこの建物内の図書館ホールで、コッホは結核菌の発見を公表したのであった。(見学電話要予約。電話番号: 030-2093 4719)

森鷗外記念館は当フンボルト大学日本文化研究センターの付属施設である。1887年から88年にかけてベルリンのロベルト・コッホ衛生学研究所で研究生活を送った医師、学者、作家そして翻訳家であった日本人、森鷗外(1862-1922)を記念して設けられた。記念館は、森鷗外がドイツ文化、文学、医学を日本に紹介した功績を受け継いで学術的な研究活動を続けるとともに、翻訳にも重点を置いた活動をしている。(所在地: Luisenstraße 39、開館時間: (月)-(金) 10:00-14:00、電話番号: 030-282 6097)

コンピュータ・センターにある1978年開設の「フンボルト小画廊」では大学関係者や学生、また付近在住の芸術家の作品を展示している。(所在地: 大学本館 Unter den Linden 6、開館時間: (火)-(金) 12:00-18:00)

ベルリン・トレプトウ区には広さ3.5ヘクタールに及ぶ樹木園がある。ルードヴィッヒ・シュペート栽培園(1720年創立)の所有者、フランツ・シュペート(後の農業顧問)が事業移転に伴って当時のノイブリッツに設立したのがこの樹木園である。ここでは約1200種にのぼる樹木が栽培されている。

(所在地: Späthstraße 80-81、開館時間: 4月から10月まで (火)(土)(日)(祝) 10:00-18:00、電話番号: 030-636 6941)



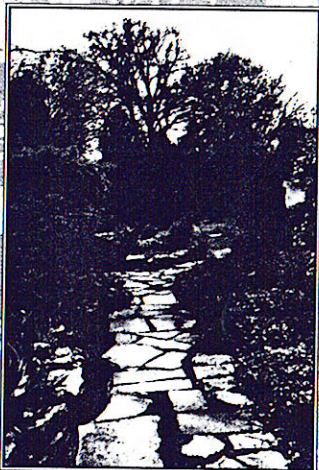
多くの分館を持つ大学図書館には420万に及ぶ書籍並びに定期刊行物、130万の博士号論文そしてその他53万の文献が保管されている。なかでも、約5500冊のグリム兄弟図書館は貴重である。部分的にかなり破損をしている書籍の修復は「書籍代理所有者制度」という形で支援されている。(大学中央図書館所在地: Dorotheenstraße 27、開館時間: (月)-(金) 09:00-21:00 (土) 9:00-13:00、電話番号: 030-2093-3212、電子メール: info@unibib.hu-berlin.de)



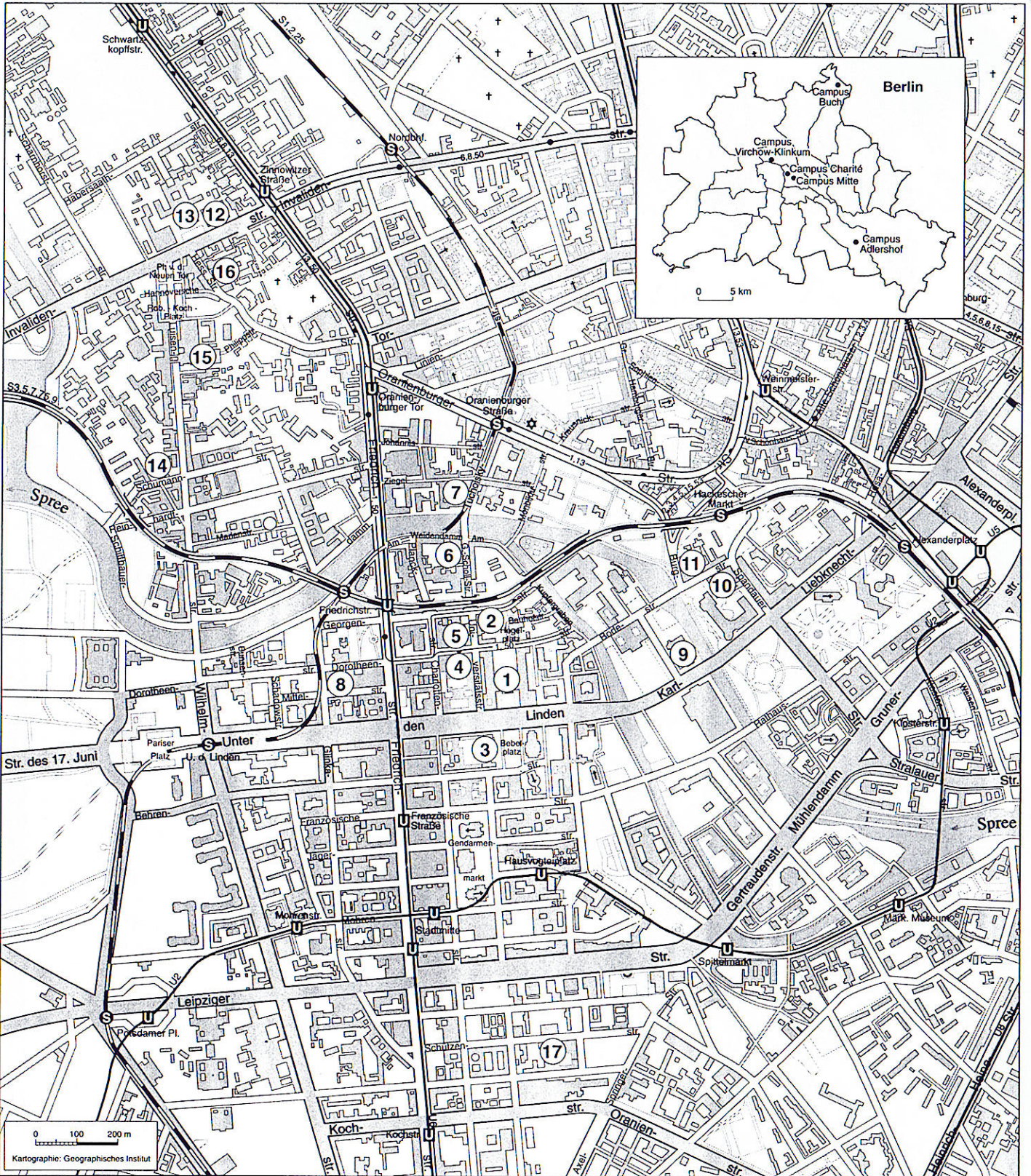
フンボルト大学協会(1996年創設)は卒業生と後援者からなる友の会で、大学と社会との接点の役割を果たしている。以前の大学関係者との結び付きを維持することも協会の業務に含まれている。(所在地: Unter den Linden 6、電話番号: 030-2093 2450)

Impressum: Japanische Ausgabe in Zusammenarbeit mit der Mori-Ogai-Gedenkstätte: Taro Daikoku, Beate Weber. 1999年5月

Herausgeber: Der Präsident
Redaktion: Referat Presse- und Öffentlichkeitsarbeit, ☎ 030 / 2093 2946, Satz & Layout: Heike Zappe
Abbildungen: Archiv, Joachim Fisahn, Waltraud Harre, Sylvia Scholz, Heike Zappe
Stand: Mai 1998



ベルリン・バウム
シューレンヴェークの
樹木園



フンボルト大学附属施設 (ベルリン・ミッテ区) 抜粋

- | | | |
|---------------------------------------|----------------------------------|--|
| ①本部棟, Unter den Linden 6 | ⑦学生相談室, Ziegelstraße 13 | ⑬自然科学博物館, Invalidenstr. 43 |
| ②セミナー棟, Hegelplatz | ⑧ベック・ハウス, Dorotheenstraße 65 | ⑭大学病院 シャリテ, 中央正面入り口
Schumannstraße |
| ③「コモデー」(語学センター), Altes Palais 19-11 | ⑨ドーム, Dom | ⑮シャリテ入院棟, Luisenstraße |
| ④大学付属図書館, Dorotheenstraße 27 | ⑩シュパンダウ通り 1, Spandauer Straße 1 | ⑯ヘッセン通り, Hessische Straße 1-2 |
| ⑤ドロテン通り 26, Dorotheenstraße 26 | ⑪ブルク通り 25-26, Burgstraße 25-26 | ⑰モッセ・センター, Mosse-Zentrum,
Schützenstraße 21 |
| ⑥ショル兄弟通り, Geschwister-Scholl-Straße 7 | ⑫インバリエーデン通り 42, Invalidenstr. 42 | |

ベルリン・フンボルト大学
 Unter den Linden 6
 D-10099 Berlin
 電話: +49-30-2093-0 (代表)
 ファックス: +49-30-2093-2770 (代表)
<http://www.hu-berlin.de>

広報担当部
 大学本部棟 (R. 2095)
 電話: 2093-2946, ファックス: 2093-2107
 電子メール: hu-presse@uv.hu-berlin.de
 国際学術交流局
 大学本部棟 (R. 2071) 電話: 030-2093-2565

学務担当課、学生相談室
 93-21 Ziegelstraße 13 (R. 516) 電話: 030-2093-1557

学術研究課、技術学術トランスファー
 Hausvogteiplatz 5 (R. 418a) 電話: 030-20246911